

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和6年度第1回丹波篠山市日本遺産・創造都市推進委員会

2 開催日時

令和6年6月17日(月) 13時30分から15時30分まで

3 開催場所

丹波篠山市役所 第2庁舎3階 2-301・302会議室

4 会議に出席した者の氏名(敬称略)

(1) 委員

山田俊朗、市野達也、田中義治、中村浩二、尾川五朗、大西由喜、浅海真弓、小山龍介、西本和史、中西一矢、堀井宏之、清水夏樹

(2) 執行機関

ブランド戦略課	酒井篤史、小山達朗、菅原将太、新藤元太
商工観光課	酒井誠、工藤智香子
社会教育・文化財課	田中和哉

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由

該当なし

8 会議資料の名称

(資料1) 令和5年度事業について(12~3月分)

(資料2) 文化観光拠点整備事業「陶の郷改修等」について

(資料3) 令和6年度日本遺産・創造都市推進事業について

(資料4) 国内都市ネットワーク会議の開催

9 審議の概要

(1) 開会

(2) 自己紹介

(3) 報告事項

(事務局) (資料 1、2 に従い説明)

(事務局) (丹波篠山国際博に関する説明)

(報告事項について質問なし)

(4) 協議事項

(事務局) (資料 3、4 に従い説明)

資料 3- (1) 日本遺産・創造都市の周知、工芸等と触れ合う機会の創出

○創造都市体験学習支援事業

(委員長) 創造都市体験学習支援事業について、活用状況はどうか。

(事務局) もう少し多くの方に活用していただきたいと思っている。

(委員長) 謝金に関して支援するというだけでなく、どのような作家さん
にお願いできるのかを併せて提示しなければ、活用する側も接点がないので
依頼しづらいのでは。

学校での授業としての活用が中心になるのか。

(事務局) 地域の団体でも活用可能だが、学校の授業で活用される場合が多く、多
くは口コミで広まっている。年度初めに市の補助事業を一覧で配布してい
るが、なかなか知ってもらえていないのが現状。

(A 委員) 学校の 1 年のカリキュラムは 4~5 月に決まるのでその時期に周知をす
るとよい。

○食と器の出逢い事業補助金

(B 委員) 食と器の出逢い事業補助金について、昨年の実績を知りたい。

(事務局) 昨年度は 9 件で 53 万 3,000 円の実績。現在は補助率 1/2 で上限 10 万
円。

(A 委員) 割れた食器の更新などでも補助は使えるのか。

(事務局) 新しい飲食店の出店も増えてきており、新規の店舗で活用いただくた
め、現在は 1 店舗 1 回限りとしている。

(C 委員) 店舗がいくつかあっても、同一法人の場合は 1 回しか使えないとのこと
だった。

(B 委員) この補助金が導入された頃、当時は手厚い補助額だったこともあり多く
の活用があったと思う。地場産業の振興の意味合いでも重要と考える。

新規で予算額上限まで達していない場合は、更新でも使えるようにする
など、柔軟な制度設計をお願いしたい。

更新のニーズは高いと思うし、商工会としても PR して協力する。

- (委員長) 同一法人だと新規店舗を出店しても使えないという件についても、検討することは可能か。
- (事務局) 検討する。
- (委員長) 次回委員会の際に、検討結果を報告いただけるか。
- (事務局) 財政協議する。

資料 3- (3) 国内外の創造都市との交流

- (D 委員) 白杵市の食のイベントに参加したが、丹波篠山市を PR するものが少なく残念に感じた。他市では動画を流すなど充実した PR をしていたので、もっと丹波篠山市を見ていただける様々な手法を検討していただきたい。
- (事務局) 市で作成している PR 動画の活用や、ノベルティなどについても検討する。
- (A 委員) PR に職員ではなく、観光協会の方や観光案内所のスタッフ、観光大使などに出ていただくことは難しいか。
- (事務局) 場合によって、観光大使や観光協会の方、丹波立杭陶磁器協同組合の方に参加してもらうこともある。
旅費・謝金を含め予算にも反映させるよう検討する。
- (E 委員) 観光大使には行ってもらえる。
- (委員長) 動画はどのようなものがあるか。
- (事務局) 丹波篠山のおすすめをすべて詰め込んだような内容の動画になっている。
- (D 委員) 丹波篠山の目玉となる動画 5~6 つほど用意して、画面タッチしたら見られるようなもの丹波篠山市を PR できると思う。
- (A 委員) デカンショ節の歌詞を検索できるようなシステムはないか。その時の気分やジャンル、季節で検索し、映像といっしょに流れ出すとそれをフックに丹波篠山に行きたくなるのではと思う。
- (F 委員) デカンショ館でも具体的にどうしていか考えていきたい。

日本遺産の周知

- (E 委員) 日本遺産の体験学習支援について、丹波焼の陶芸体験などしていると思うが、デカンショの方はジュニア競演会などが体験の場にあたると思う。全部の学校が出るわけではないので、PTA に任せるのではなく支援してほしい。
- また、デカンショ館について、これからは「体験型」「楽しめる」施設にして欲しいと思う。浴衣を着る、縁日を体験できるなど、気分を味わえるデカンショ館であるべきでは。
- (B 委員) 今年のデカンショのジュニア競演会が存続の危機にある。
今のところ出てくなくても 2 校程度。実行委員会としても思い入れのある事業で、次世代に残していかなければならない祭りなので危機感を持っている。

- (G 委員) 滋賀県に“ヤンマーミュージアム”という施設があって、まずは創設者のアニメがあって、その後農業に関連するアトラクションがある。このように“楽しい”というキーワードでデカンショ節を伝えるという切り口があるんじゃないかと思う。
- (F 委員) デカンショ館のあり方について、今後どのように進めるか来週に市と協議予定。郡上八幡のミュージアムを参考に、デカンショ館のソフト面のあり方について早急にテコ入れしていこうと考えている。
- (H 委員) 音響の問題や、ステージの問題があるが、デカンショ節保存会としてもデカンショ館で披露したりできないかと検討している。
- (委員長) テーマを「デカンショ節」そのものだけではなく「祭の楽しさ」くらいに広げることで、インバウンドの方のニーズに合わせられるのでは。

資料3- (2) 民間団体への支援

- (F 委員) 里山暮らしツアーは好評で、国際博やオーガニックビレッジとも連携した事業を実施予定。
- (I 委員) アートフェスティバルでは、多くの方に見に来ていただきたいと思っているが、飲食の場所が少なく、ご案内するのが大変だと感じる。
- (B 委員) 丹波篠山市の最大の課題。秋の時期はオーバーツーリズム、それ以外は閑散期でなかなか産業になっていかない。そこでキッチンカーで営業する商工会員も増えてきているので、そちらも活用していただきたい。
- (委員長) 亀岡市ではキッチンカーの導入支援がある。特に国際博でも、いろんな場所でイベントがあるという場合に、今だと市外のお店が来てしまうことになるのでは。
- (B 委員) ぜひ検討していただきたい。
- (A 委員) キッチンカーだけでなく、景観を意識する意味で、それを食べるベンチやパラソルも統一的なデザインのものを貸し出すなども検討できないか。

資料4 令和6年度UCCN国内ネットワーク会議

- (F 委員) 1月は積雪の心配があるので12月が望ましいのでは。
- (A 委員) エクスカーション（専門的目的を持って、プロフェッショナルな分野で行われる見学と研修）の内容について、寒いときは火が恋しくなるので窯を見て回るのもいいかもしれない。
- エクスカーション
- (F 委員) 今田で日本刀の体験ができそう。ガラスも工房も。
- (A 委員) やきものには必要な“火”を一つのテーマにするのもいいと思う。焚き火を眺めるだけでも田舎ならではの楽しみ。
- 灰小屋という丹波篠山に多く残る伝統的な肥料を製造する装置があって、それが日本農業遺産の中心のコンテンツでもあって、そこでも火が関連する。焼きいもやおもちを焼くというのもいい。
- (委員長) 市民の方にも参加いただくことを考えると、どのような講師が想定され

るか。

(J 委員) まずはそもそものテーマを決定すべきでは。

(委員長) 例えば“火のクラフト”とテーマを決めたとして、焼きいもやおもちを焼いて子ども達が楽しんでいて、そこにエクスカージョンの人が来るような、日常の様子を見てもらうスタイルがいいのでは。

 今日この場で決定できるものではないので、今日出たお話を踏まえて事務局の方で企画してもらうこととする。

(5) 意見交換

国際博における加盟都市との交流事業

(委員長) 国際博を開催するので、創造都市ネットワーク加盟都市を招待してはどうかということを検討している。過去に陶磁器協同組合と韓国のイチョンが合同で女性陶芸家店を実施したことがある。そのようにイベントを企画して、そこに出席してもらう形が考えられる。

(A 委員) 陶磁器のみならず、「陶磁器×お茶」「陶磁器×音楽」など掛け合わせると来られる方も楽しいのでは。民謡と民藝、デカンショ節と丹波焼のようなイメージや、伝統×伝統だけでなく AI と伝統などもよいのでは。

(I 委員) 海外の作家は丹波篠山にはすごく興味を持たれると思う。例えば 11 月など時期を決めていただければ、あらかじめ何件か協力可能なところに、加盟都市の作家の方の作品を展示するというようなことは考えられる。

(委員長) 時期は来年なので、時間があまりない。次回の委員会の際には具体的なたたき台が必要になる。

(5) 閉会